

福岡大学 医学会ニュース

No. 39

福岡大学医学会 福岡大学医学部内

医学部存立の原点 は教育にある

元医学部長
前精神医学教授

西園 昌久



この三月末で定年を迎えましたが、その後のライフスタイルは一向に変わりません。現に求められたこの原稿は世界精神医学会の学会賞選考委員会でやってきたバリの宿で書いています。それにしてもこの数か月、私の心に大きく影を落としているのは福岡大学医学部の行末についてです。もう辞めたものがあれこれ言っても詮なき事で失礼なことかも知れませんが、しかし、礎

それまでの教授会で報告を聞く限りでは、学生たちも真摯に努力し、関係者の皆さんも新しい工夫をされているというものでした。それだけに信じられない事態になったという思いがします。医師国家試験の成績のよしあしが、直接に医師づくりの優劣を示すものでないかも知れませんが、しかし、折角、上昇していた福岡大学の成績が低迷しはじめたのは医師国家試験の改善が急ピッチにすすんできた頃からと思えます。すなわち、試験問題の内容が想起型から理解型、問題解決型へと比重を移し、さらに、禁忌肢、必修問題の導入、選択肢のいくつかを知っておれば正解が類推できていたK2、K3タイプから正確に知っていないといけないX2、X3タイプへの移行に追いついていけなかったのではないのでしょうか。つまり、今の医師国家試験は

丸ごとの暗記では駄目なので、す。根拠にもとづいた判断が問われる方向へと変わっているのです。平成十三年の試験からは一層そのようになることが公表されました。そのような試験に悪い成績が続くということは本学の教育の内容への警鐘でないでしょうか。大分前になりますが、本学の新卒の成績が久留米大学のそれを抜いたことがありましたが、その頃から久留米大学は教育改革に本腰を入れはじめたように思われます。教育ワークショップに学生を多数参加させるとか他学から講師を招待するとかがなされていきます。研修医に「医師のマナー教育」がなされているとも聞きますが、これも大学全体の教育理念のあらわれでしょう。久留米大学の改革は単なる国家試験対策ではないのだと思われま

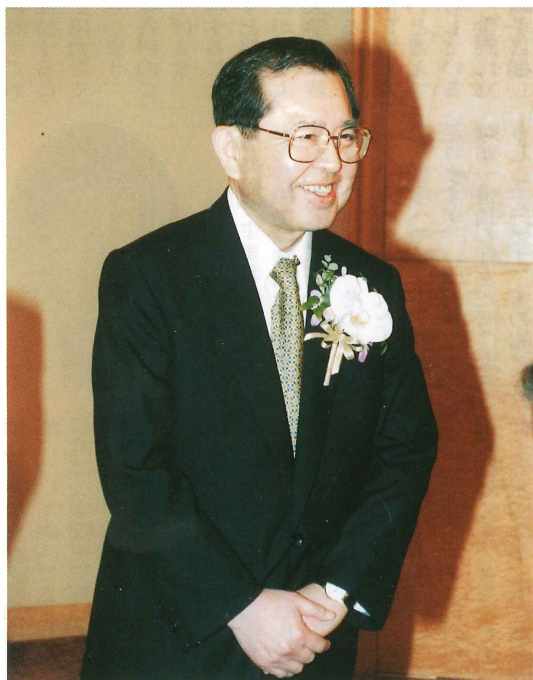
でもやられている苦ですから、その中に教育について徹底して見直していただいたらどうでしょうか、その際、最近、国立大学で導入しつつある外部評価もとり入れられることをおすすしめします。第二の希望は、日本医学教育学会に加入される方があらわれることです。現時点では本学からの会員はほんの数名です。単なる経験だけではひとりよがりの教育になりかねません。まさに老婆心から苦言を呈しましたが私の考えからすると、改革を決定する好機でもあります。全体の雰囲気をもりあげるとともに教員の教育への態度を変化させるための具体的なプログラムが必要だと思ひます。

【西園昌久先生からのメッセージ】

アジアの医療を見て思ったこと

前麻醉科学教授

檀 健二郎



大学を去るに当たって気になるのは、今後の私立医大の方向を規定する医療システムのことである。

平成十一年二月二十八日、台湾疼痛学会(会長・潘廖明義先生Dr. Chan-Liao)に招かれて口演を行う機会に恵

られた。会員百名前後であったが、レベルは非常に高い訳ではないが、皆さん大変熱心であった。会長Dr. Chan-Liaoは台中県大里市に父上、兄上と一緒に八百床の個人病院を経営しておられます。父上八十四歳(満大医卒)、本

化に心を打たれました。第一部卒の日本びいき一家庭です。大変驚いたことは年間手術例の数一万五千例/入院日数八万五千例/年の手術例数を麻酔科医二十名とナースアネス

さらに本年四月二十一日バンコク市に、タイ疼痛学会(Thai Chapter of International Association for the Study of Pain)に招かれ、市内数カ所で開催の講演を行なった。タイ国第一の国立大学病院Siriraj Hospitalは二千五百床で手術例は年間四万例とのことであった。今一つのバンコク市赤十字病院も建物に決して新しくはないが、メインテナンスが抜群で奇麗であった。

一九九六年ソウル市での疼痛学会での招待の折は、生理学者が世話をされていたので手術例数を聞けなかった。恐らく入院日数を減じて手術例数が多い状態であったと思う。特に、台湾の経済力の充実と伸展は著しく、日本を越えている感じがした。このようにアジアの進んだ国々の医療

の一端を垣間見る事が出来て、日本も効率と安全性をさらに高めてゆかなければならないのではないかと。独り日本のみが世界で平均入院日数二十三日二十八日を国立病院、大学病院で保っているのは不思議に思われてきた。

医療システムのすべてを厚生省の指示に頼っているのが現状のように思われる。しかし、日帰り手術(day care surgery)などを真剣に考えてゆくべき時期のように思う。福岡大学病院平均入院日数二十一・二十二日から十八・二十日とすれば、手術例数は倍となる。検査、放射線部、病棟すべての仕事が倍となる。これをどのように合理化するかを考えるべき時がきているように思った。

福岡大学医学会
第二十二回総会ならびに
第四十一回例会(報告)
日時 平成十一年五月二十六日(水)
一七時から
場所 臨床大講堂

第二十二回総会

- 一 開会の辞
- 二 会長挨拶
- 三 医学部長 池原 征夫
- 四 報告事項
- 五 役員改選

第四十一回例会

- 一 「癌治療の最前線：遺伝子治療による天寿をめぐって」
講演者 黒木 政秀 教授(生化学第二)
- 二 「子宮と脳の可塑性について」
講演者 瓦林 達比古 教授(産科婦人科学)

【改正前】

- 三 対象 対象とする論文は前年度の四月から三月までに発表されたものとする。
- 【改正後】
- 三 対象 対象とする論文は前年度の四月から三月までに発表されたものとする。

【対象論文】

- 平成十年四月から平成十一年十二月までに発表されたもの
- 募集時期 平成十二年二月を予定

「福岡大学医学会賞についての内規」

一部変更について(お知らせ)

新 風

平成11年 4月1日付で本学へ赴任、または昇格された方に自己紹介をしていただきました。

麻醉科学教授 比嘉和夫



私は昭和四十八年に九州大学医学部を卒業し、開設直後の福岡大学病院の第一期の研修医として内科で、研修を始めた。開設直後の福岡大学病院は自由な空気があり、内科をしながら同時に麻酔科の見学をすることができた。麻酔科の見学を始めたのは、学生のベッドサイドの時に、ある外科医が「内科の医者は偉そうなことをいってばってんが、目の前の患者を助けることができない。医者は救急蘇生を絶対にできんといかん」という一言でした。麻酔科は三週間の見学の予定で

したが、一年後には麻酔科学に専念するようになり、現在に至っております。

福岡大学病院では昨年はほぼ五、五〇〇例の手術が実施されており、病床あたりの年間の手術症例数は、日本の大学病院ではトップクラスです。中央部門としての麻酔科がこれほどの臨床業務を維持することは、臨床各科のご協力なくしては不可能でございます。これまで同様に臨床各科のご協力をお願い申し上げます。

生化学第一講師 黒木 求



広島県生まれ、もうずいぶん昔越中は富山大学で薬理学を、大阪大学大学院で免疫学を学びました。その後松岡現名教授のおられた生化学第一教室へやって来て現在に至りますが、いつのまにか福岡が一番長く住んだ所になるうとしています。その間アメリカ、コロラド州デンバーの病院で二年間研究員として過ごしました。所属教室は生化学ですが、やっていることは生化学の本流ではなく、研究成果の多くは癌学会や免疫学会で発表しています。これまで免疫化学的あるいは分子生物学的手法を用いて、消化管粘膜や好中球に存在するCEA(Aファミリー抗原(CD66))の遺伝子とタンパクの構造や機能について調べてきました。最近は大腸癌や外国人研究員が増え、一緒に癌に関連した細胞接着分子の研究や、癌の免疫療法あるいは遺伝子療法の基礎的研究もやっています。講義は微生物学教室と分担して二年生の免疫学を教えています。免疫のメカニズムの面白さを理解してもらいたいことは難しいものです。近頃の趣味は植物の観察とロッキーマン脈で学んだマスコットの毛針釣りで、どちらも山へ行くことですが、主に家庭内の力関係で前者ばかりになりがちなのが残念です。大学院生(できれば釣りの好きな)を募集しています。

教室紹介

衛生学

「教室スタッフ」現在のスタッフは、畠博(教授)、宮崎元伸(助教授)、百瀬義人(兼任講師)、瓜生洋子(教育技術職員)、深見満愛(大学院生)の他、研究生三名。初代教授は江崎廣次(名誉教授)先生。

「教育」M3は講義が中心。内容は、疫学入門、産業保健概論(畠)、地域保健概論、廃棄物、国際保健(宮崎)、健康教育(百瀬)について。M4では、産業保健、成人保健、老人保健(畠)、感染症の疫学、衛生行政衛生法規(宮崎)、人口

保健統計、学校保健(百瀬)についての講義の他、フィールド実習を行う。この実習は、保健所実習、施設実習およびテーマ実習の三本立てとなっている。保健所実習では、保健所の業務を体験し、講義では得られない地域保健の実感について見識を深めている。施設実習における実習先は、新日鉄八幡、福岡県精神保健福祉センター、福岡県保健環境研究所で、各施設の特徴を活かした実習を行っている。テーマ実習では、各グループでテーマを設定して調査研究を行う。今年のテーマは、「日本酒、ビール、焼酎何が一番健康に最も良いか?」、「危機

管理」特に感染症を中心として、「本学卒業生の診療スタイルとQOL」などである。実習結果については報告会を行ない、さらに、実習報告書としてまとめ、全国の衛生・公衆衛生学教室と交換している。

「研究」疫学的研究が主であり、各プロジェクトが並行している。

市町村プロジェクト1:ヘリコプター・ピロリの家族内感染に焦点を当てて、親子への垂直感染や配偶者間の水平感染について、Population-based Studyにより検討する。

市町村プロジェクト2:健康で長生きする者と介護が必要になる者との比較から、健康長寿に関連する要因(職業、家族構成などの社会的経済的項目、飲酒、喫煙などの生活習慣等)を明らかにするための

Prospective Study

市町村プロジェクト3:緑茶の摂取が血清脂質あるいはヘモグロビンに影響しているかどうかを検討するためのCross sectional Studyである。

その他の研究:感染症と循環器疾患との関連についての研究、過酷なストレス下にある中高年労働者の健康危険度評価についての研究、血清レプチンと体脂肪、食行動との関連についての研究、直接法による血清LDLコレステロールと生活習慣との関連についての研究、福岡県における主要死因死亡の地域差に関する研究等に手がけている。(文責 百瀬)

法医学講師 原 健二



一九七四年福岡大学理学部化学科卒。私が法医学教室に就職できたのは、詳しくは述べませんが、いろいろな偶然が重なっています。ただ、恩師(木本英治教授)が九大の法医学教室に所属されたことがあったことがきっかけです。将来、何か研究ができればいいなと思っただけでした。当初は、法医学で何をやるのか全くわかりませんでした。が、まもなくガスクロマトグラフ・質量分析計が設置され、オペレータとしての出発となりま

した。以後、この装置を法医学に活用する研究を行ってきました。一九八〇年から八二年にかけて、この技術によりスイスのチューリッヒに留学することができました。留学では、化学の専門家である自覚をもたされ、今日の研究基盤に使っています。質量分析装置を使っていると、つい未知なものに手を付けたくなり、現在、毒物分析の邪魔物に悩んでいます。この研究は、最初は全く未知から始まり、破片になった化学物質のパズルに挑戦し、解決までから、やっと本格化してきました。実務分析の中、何か意味のある邪魔物に出会う夢を追っています。特に趣味や特技はありませんが、二三年前に一度ぐらいですが、国際学会に行く時に、全く下調べせずにでかけ、空港に着いてから情報を集め、自分なりに何か発見することを楽しみにしています。本日は、急げ者で、窮地に立たねば本気にならないということかも知れません。このような私ですが、今後とも宜しくお願い致します。

内科第一講師 瀬尾 充



出身は福岡県飯塚市で昭和五十七年に鹿児島大学を卒業後、福岡大学第一内科に入局、第一内科、浜の町病院で一般内科の研修を行いました。研修終了後当時八尾恒良現福岡大学筑紫病院院長、消化器科教授が主任をされていた消化器研究室に入り、消化器病の勉強をはじめました。臨床のトレーニングをうける間、新小倉病院に二年間出張し貴重

な経験を積むことができた。その後先輩の学会発表のお手伝いをしたのがきっかけで炎症性腸疾患の臨床研究に携わるようになり現在も継続しています。学位論文は、八尾教授、岡田光男助教授、両先生に指導して頂き潰瘍性大腸炎の重症度の研究をまとめました。研究データ処理のため電算機室にいらしたりしましたが、研究をまとめるにあたりコンピュータの緻密さが元来の自分の大雑把な性格をカバーしてくれたようです。早期の消化管の癌の診断および内視鏡治療、炎症性腸疾患の診断、治療、病態など消化器の臨床の興味は尽きません。診療、教育を通じて消化器の臨床の面白さを後輩に伝えていければと考えています。また平成九年に就任された田村和夫教授がいわれる「専門領域だけでなく内科全般を診れる医師」をめざして自分自身努力していきたいと考えています。今後ともご指導ご鞭撻をよろしくお願い致します。



長い間
ありがとう
ございました

(平成十一年一月一日)

(三月三十一日退職の方)

○西園 昌久(精神医学)

定年のため

(平成十一年三月三十一日付)

○檀 健二郎(麻酔科学)

定年のため

(平成十一年三月三十一日付)

○松吉 哲一(心臓血管外科)

開業のため

(平成十一年三月三十一日付)

○松前 知治(内科第二)

村上記念病院へ

(平成十一年一月三十一日付)

○松岡 弘文(泌尿器科)

麻生飯塚病院へ

(平成十一年三月三十一日付)

○詠田 由美(産婦人科)

開業のため

(平成十一年三月十五日付)

医学部・病院 平成11年度行事予定

平成11年 (1999年)	
4月3日	福岡大学入学式
4月22日	第93回医師国家試験合格発表
5月21日	福岡大学創立記念日
5月26日	福岡大学医学会第22回総会 および第41回例会
7月25日～ 8月9日	第51回西日本医科大学体育大会
10月16日	第25回医学部慰霊祭
10月30日～ 11月4日	医学祭・七隈祭
11月24日	医学部父母後援会
平成12年 (2000年)	
2月11日 ～12日	医学部入学試験
3月初め	福岡大学医学会第42回例会
3月18日～ 19日	第94回医師国家試験

教室紹介

心臓血管外科

当教室は、一九七五年八月に浅尾 學前教授によって開設され、一九九三年四月から木村道生先生が第二代教授として就任されました。現在、医局員は木村教授、田代助教以下、講師・助手・医員・大学院生等を含め計十四名が在籍し、日頃の診療・教育・研究に従事しています。

当科は、心臓・大血管領域における虚血性心臓病・弁膜症・先天性心疾患・大動脈瘤に対する手術や、末梢血管領域における閉塞性動脈硬化症・急性動脈閉塞症に対する手術等を行っています。手術例数は年々増加し、昨年は三三例（開心術一四例）を数えています。近年、手術適応となる虚血性心臓病は、高齢・低左心機能・脳血管障害・腎不全・呼吸不全等の重篤な合併疾患をもつ患者さんが増えています。このような例には、人工心肺を用いずに心拍動下冠動脈バイパス術を施行することで、体外循環に起因するリスクを回避し、手術侵襲を最低限におさえるよう努め、良好な成績をあげています。

教育面では、M3、4での臨床講義、M5での実習（B・S.L）を主にを行っています。講義内容は、循環器疾患の手術適応・術式・術後管理や人工臓器等に関する比較的難解な事項ですが、スライドやビデオを用いてのわかりやすい講義が好評で、木村教授は、毎年学生が選出する「ベスト・レクチャー賞」の常連です。B・S・Lでは、手術見学はもちろん、循環器科との合同カンファレンスの参加、また病棟回診の際は様々な心雑音を聴取する機会を与えており、循環器疾患への関心を抱く一助となるよう心掛けています。実際に「拍動している心臓に触れてみたい」と、M6の student B・S・Lで当科を希望する学生さんも少なくないようです。

研究面では、術中バイパスグラフトの血流評価や、体外循環時における抗凝固能・白血球機能等の分子レベルに及ぶ研究を大学院生を中心に行っており、近い将来の臨床応用が期待されます。

当科では、不安定狭心症や大動脈解離・破裂等に対する緊急手術が少なくありません。一刻を争う事態に、麻酔科（手術部）はもちろん放射線部・臨床検査部・救命センター・循環器科等の各部署にひとかたならぬ協力・ご援助を頂いており、深く感謝しています。今後も、医局員一同、常に最先端の医療を供給すべく努めていきたいと思っています。

（文責 立川）

精神神経科講師

鈴木智美



はじめまして。

私は昭和六十二年に本学を卒業し、西園昌久先生の精神医学教室に入局しました。精神力的な見方・病理の把握に関心を抱いて、二年間の研修後には、精神分析学専攻の大学院で「摂食障害の親子関係」に関する研究を学位を取得しました。さらに視野を広げるべく、フランスのJannet 教授の下に留学して摂食障害の精神分析的臨床実践について学び、また、思春期心身医学ならびに精神病理学専門資格を取得して来ました。

振り返ってみると、思春期

の患者さん、とくに摂食障害患者さんとのつきあいを研修医以来ずっと続けてきています。不器用なのであれこれと多方面を同時に研究することはできませんから、摂食障害の患者さんの心理を精神分析的に追求し、治療にどう活かすかを、これからも私の一貫したテーマとしていきたいと思っています。もちろん、外来では摂食障害以外の沢山の患者さんとも出会います。さまざまな人生を垣間見、その一端に関わることの出来る醍醐味を精神科医として味わっています。現在は精神分析家として国際分析協会に認定されるべく修行中です。患者さんから学び患者さんとともに歩くことが大切かなと思います。現在に至っています。

たまの休日には、園芸を楽しむながら過ごしています。草花がもたらしてくれる安らぎは、私にとって何よりのものです。その草花と、周囲の人たちからの援助を得ながら、

精神神経科講師

石井久敬



臨床と研究、そして学生指導に取り組んでいきたいと思っています。

昭和六十三年に長崎大学医学部を卒業後、西園昌久教授の精神医学教室に入局しました。一年目の研修は大学で、二年目は福岡県立太宰府病院で行い、臨床精神医学の一般について学ばせていただきました。

平成二年からは福岡大学大学院医学研究科社会医学系に進み、西園先生より臨床精神医学、特に精神科診断学のご指導を得、精神科診断と診断者の経験年数との関係について

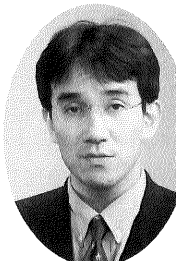
の研究により学位を取得しました。平成六年四月からは大牟田の不知火病院ストレスケアセンターで気分障害の診断と治療に携わり、平成七年四月から福岡大病院でリエン・コンサルテーション精神医学を担当した後、平成八年から大学病院精神神経科病棟に勤務し、平成九年四月から病棟医長の任を仰せつかり現在に至っております。

特に関心を持っているのは気分障害の性格・状況論で、今後は客観的手法を用いて同障害の成因について実証的研究を進めたいと考えております。

学生時代は漕艇部に所属し、厳しい練習でストイックな生活でしたが、楽しく充実した毎日でもありました。医師となつた後、学会準備等の連日徹夜で疲労困憊した時に感じる自虐的満足感はこの漕艇部時代の体験から来ているようです。今後ともよろしく御願い申し上げます。

眼科講師

尾崎弘明



私は平成二年に大分医科大学を卒業後、福岡大学眼科学教室に入局致しました。当大病院での研修、佐世保共済病院での部外研修の後、福岡大学大学院（眼科学）に進学し、糖尿病網膜症、未熟児網膜症にみられる眼内血管新生の細胞生物学を専門として研究に携わってまいりました。

大学院時代は第一生化学教室の松岡雄治前教授、黒木政秀教授のもとで御指導を受け、大変御世話になりました。平成七年からは当教室の大島健司教授の御推薦により、米国ボルチモアのジョンズホプキンス大学ウィルマー眼研究所に留学する機会を得、Peter A. Campochiaro 教授のもと同分野の主に網膜血管新生のメカニズムの解明とその抑制に関する研究を続けてまいりました。

学生時代はラグビーに明け暮れていましたが、現在は外来医長、副医局長として、また研究、二女の子守にと多忙な日々を送っています。いままでは教わる立場でしたが、今後は大学院生や学生を指導する立場としての責任を痛感しています。今後とも皆様の御指導、御鞭撻の程よろしく御願いたします。

牧野 郁子（病態機能系専攻）
ラット培養大脳皮質細胞におけるグルタミン酸刺激によるアンジオテンシンタイプ2受容体の増加

山田 勝博（病態機能系専攻）
イヌ星状交感神経節伝達のエンドセリンETO 受容体を介するシナプス前抑制における一酸化窒素の関与

池田 宏之（病態機能系専攻）
実験的内リンパ水腫モデルにおけるライソネル膜構成細胞の動態

佐伯 和彦（病態機能系専攻）
表面筋電図による前十字靭帯再建術後の大腿四頭筋の筋力評価と術後療法への応用

藤原 明（病態機能系専攻）
前十字靭帯再建術における移植腱の至適捻れに関する実験的研究

信國 寿美重（病態機能系専攻）
肺気腫症の肺線維芽細胞の増殖におけるたばこ煙の影響

山本 貴文（病態生化学系専攻）
インビトロおよび SCID マウス担癌モデルにおけるマウスノヒト・キメラ抗 MK-1 抗体と LAK細胞の組合せによる抗腫瘍効果の増強

上原 吉就（病態生化学系専攻）
コレステロールによる血管外膜キマーゼ活性の増加

中山 秀（病態生化学系専攻）
高血圧ハムスターの心血管系におけるアンジオテンシン II 産生酵素発現の変化

田中 智一郎（病態生化学系専攻）
IgA腎症患者由来末梢 Tリンパ球上における HLA-DR 分子の発現増加

岩井 昭治（社会医学系専攻）
精神科外来高齢患者の社会的適応／QOL に関する心理社会的要因に関する研究

本田 啓二（社会医学系専攻）
Blos. Pの思春期発達モデルの今日的再検討に関する研究

☆論文提出による学位取得者

近藤 寛之（眼科学併任講師）
緑内障濾過手術のための合成メッシュインプラント：家兎眼におけるヘパリン及びヒアルロン酸ナトリウム添加の効果

廣吉 元正（学外者）
膵性糖尿病患者における経口糖負荷試験後の血漿 GLP-1 (Glucagon-Like Peptide-1) 値の変動

徳永 伸子（内科学第二研究生）
腎障害を伴う日本人慢性関節リウマチ患者と HLA-DRB 1 15 との相関

棚田 徳彦（法医学研究生）
法医学的手法として GC/MS による毛髪中酸化染毛剤の実用的分析法

学位取得

次の方は、平成11年3月19日付で、福岡大学より医学博士を授与された。

☆過程修了による学位取得者

辻岡 寛（人間生物系専攻）
GPI特異的ホスホリパーゼDの発現とその機能
1) GPI特異的ホスホリパーゼDの翻訳後修飾とGPI アンカー切断活性
2) ホスホリパーゼDによる細胞内 GPIアンカー切断はプロテインキナーゼ Cαの活性化を引き起こす

岡留 綾（感染生物系専攻）
IDEIA PCE Chlamydiaによるクラミジア抗原測定法の基礎的検討
- Ligase chain reactionとの比較 -

納富 貴（感染生物系専攻）
Ligase chain reaction法を用いた Chlamydia trachomatis感染症診断におけるリン酸イオンの阻害効果

田中 敏博（病態構造系専攻）
日本人における組織球性壊死性リンパ節炎（菊池病）患者の HLAクラス II 遺伝子（HLA-DR、DQ、DP）の DNA タイピング

多田 勝（病態構造系専攻）
逆流性腎症における糸球体硬化の機序
一組織形態学的研究一

立川 裕（病態構造系専攻）
ヒト大動脈での粥状硬化形成における糖酸化反応と活性酸素消去酵素の役割

劉 新相（病態構造系専攻）
甲状腺癌におけるフィブロネクチン発現の特異性とその生物学的意義

野中 将（病態構造系専攻）
脳腫瘍に対する音響化学療法法の基礎的検討

諸見里安史（病態構造系専攻）
網膜剥離眼の硝子体液と網膜下液における vascular endothelial growth factor 濃度

尾石 弥生（病態構造系専攻）
Crohn病における慢性膵炎の臨床的研究

東 大二郎（病態構造系専攻）
Crohn病肛門病変の natural historyと治療成績

久米 徹（病態構造系専攻）
リンパ上皮腫類似胃癌における腫瘍細胞の Fas-ligand発現と細胞傷害性 Tリンパ球との関連についての検討

平塚 昌文（病態構造系専攻）
Heat shock protein 70(Hsp 70)遺伝子導入の肺移植後虚血再灌流障害に対する影響

辻岡 安美（病態構造系専攻）
アルツハイマー病における cdc2 及び cdk4 の発現と局在

『親心・子心(2)』
「分化とあきらめ」

病理学第二教授 坂田 則行

分化は英語で differentiation
と言いますが、個体の発生の
過程で個々の細胞が特殊化し
た細胞になってゆくことです。
私達の体は多数の細胞の集ま
りから成っています。しかし、
その大本は一個の受精卵で、
それが分裂増殖を繰り返す中
で特殊な細胞の集まりとなり、
相互に有機的に結合し、全体
として統一した一個の個体と
して完成するのです。このよ
うになって私たちの体は、初
めてこの世の中で生きてゆく
ことが出来るのです。その意
味まさに細胞は一個の個体
という社会の立派な構成員で
あるわけです。しかし、この
構成員はすべて分化した細胞
でなければなりません。中途
半端に分化した細胞では使い
ものにならないのです。心臓
は心臓の細胞として、肝臓は
肝臓の細胞として完全に成熟
した細胞でなければ決して使
いものにはなりません。この
ことは、全能性の一個の受精
卵が分裂を繰り返しながら単
能性の細胞の集まりになって
ゆくことを意味しています。

語にアポトーシス(apoptosis)
というものがああります。日本
語で細胞死、またはプログラ
ム細胞死(厳密には多少異な
るが)ともいわれています。
この用語はもと発生学の
分野でみられていた現象のこ
とで、個体が受精卵から発生
していく過程で特定の細胞が
自殺することを意味していま
す。たとえば、五本の指が形
成される際には、指の間の
細胞がアポトーシスをおこし、
一本ずつ離れることで完成さ
れるわけです。もし、この時
この細胞にアポトーシスが起
こらなかつたら、指の間に水
掻きのようなものができてし
まうのです。私たちの体を構
成している細胞は、細胞社会
全体の目的のためにはこの崇
高な命までもあきらめるとい
うことをしているのです。

話は変わりますが、私から
見れば学生諸君はこれから様々
な可能性を秘めていて、それ
はうらやましい限りです。私
のような年になってしまつと、
もう今更内科や外科の医者と
して仕事が出来るわけではあ
りません。もう、一生病理で
飯を食つて行くしかないと思
っています。そこへいくと、
あなた方はこれから医師とし
て何でもできるチャンスを持
っているわけですから全くう
らやましい限りです。しかし、

ちよつと待てよ。私は、内科
や外科の医師としての仕事を
あきらめたからこそ、今の私
の病理医としての立場がある
わけです。もし私が内科や外
科医者を同時にめざしていた
ら、今のような病理医として
の仕事に満足に果たす能力を
身につけることは出来なかつ
たと思います。つまり、ひと
つのことを得ると言うことは、
別なものをあきらめるとい
うことなのです。あれもこれ
もほしがることは、すべてを失
うことになるということです。

あなた方は、すでに一個の
受精卵から発生して、医学生
として分化しています。この
ことは、二つのことを意味し
ています。一つは、あなた方
はいろいろな医師になる潜在
能力(これを専門用語で多潜
能 multipotentiality と言いま
す)を持っていると言つこと
です。しかし、そのことは、同時
に Jリーグやプロ野球の選手に
なることはあきらめなければ
ならないことを意味します。与
えられた講義や実習に出席し、
試験に合格するための勉強を
しなければならぬとあきら
めてもらうことを意味します。

あなた方は医師になる潜在能
力を有してはいますが、医師
としては全く未熟です。細胞
社会と同様に、人間社会も完
全に分化した医師となつては
じめて機能する(貢献する)
ことが出来るのです。中途半
端に分化しても全く役には立
たないのです。このことを自
覚した医学生に一日も早くな
つていただきたいのです。
「あきらめて下さい。さす
れば道は開かれます。」



田中一村画伯
「崖の上のアカショウビン」

受賞おめでとうございます

去る七月二十九日、西園昌久名誉教授が医学教育賞
(牛場賞)を受賞、副賞は医学部に図書購入費とし
て寄贈していただきました。

医学教育賞

牛場賞第四号

福岡大学 名誉教授

西園昌久殿

貴殿の大学医学部の自己点検・評価
入学者選抜・入格形成・人間関係評価
および国際交流に関する論文を
はじめとした医学教育に関する論文を
指導的論文・著書と当学会及び
国際学会等の役員としての医学
教育の振興についての永年に亘る
多大の貢献を高く評価して、ここに
表彰します。

一九九九年七月二九日

日本医学教育学会

会長 堀 原 一

平成11年 3月20日・21日に第93回医師国家
試験が実施され、本学から76名が合格した。
合格状況を下に示す。

合格者の研修先は次のとおり。(福大病院
は科名のみのみ)

	受験者	合格者	合格率	(前回)
新 卒	96名	70名	72.9%	(88.3%)
既 卒	24名	6名	25.0%	(46.2%)
合 計	120名	76名	63.3%	(79.2%)

医師国家試験に76名が合格

東 佳織	麻酔科	田辺 寛	筑紫病院内科	前川 信一	外科第二
雨森健太郎	長崎大学第三内科	多根井智紀	大阪大学腫瘍外科	松岡 康子	産科婦人科
新井 貴士	大阪大学腫瘍外科	田村 智章	筑紫病院外科	松本 武格	内科第二
新井 知隆	山口大学皮膚科	岡端 卓	整形外科	三河麻紀子	聖マリアンナ医科大学
池田 晃子	精神科	徳丸 良太	皮膚科	乳腺・内分泌外科	
石村 春令	内科第一	富永 博之	九州大学内科第一	三木 貴司	内科第一
伊東 威	外科第一	富野 泰弘	未定	宮島 茂郎	泌尿器科
Incoming 来 律子	鹿児島大学内科第一	中川 元道	外科第一	宮原 義登	腎センター
宇野 英明	眼科	中村 好成	整形外科	森原 大輔	内科第一
胡田 麻里	広島大学眼科	永井 智子	鹿児島大学内科第三	山本 了	鳥取大学内科第一
大久保重明	宮崎医科大学麻酔科	西川 涉	形成外科	山本 美幸	京都府立医科大学整形外科
大西 良	神戸大学精神神経科	新田 智之	外科第一	横山 圭二	内科第一
金子 朋代	外科第一	野村 優子	小児科	吉水 一郎	内科第一
神垣 嘉光	東北大学精神科	馬場 明子	神経内科・健康管理科	川上 豪仁	外科第二
川上 剛史	産科婦人科	正田 朋子	北里大学眼科	児玉 直	筑紫病院内科
菊池 克彦	九州大学整形外科	松田 悟	内科第二	林田 仁至	神経内科・健康管理科
久保 勝裕	整形外科	日高次郎	久留米大学整形外科	福嶺 紀明	整形外科
坂牧 仁	外科第一	日隈 舞	産科婦人科	西村 卓朗	宮崎医科大学産婦人科
嵯峨 晃子	小児科	平島 詳典	大分医科大学内科第三	山本良太郎	放射線科
崎山かおり	神経内科・健康管理科	深見 達弥	産科婦人科	前田 元朗	広島大学皮膚科
佐藤 慎二	岡山大学内科	福原有里子	内科第一	八尋 龍巳	脳神経外科
佐藤倫一郎	九州大学整形外科	福森 大介	外科第一	赤木 隆紀	内科第一
白橋 顕彦	筑紫病院内科	藤田 貴子	小児科	平野 公一	外科第一
高田景一郎	精神科	藤田 奈穂	神経内科・健康管理科	藤野 正礼	内科第二
高橋 誠	九州大学内科第三	藤田 宏子	日本医科大学麻酔科	堀 英昭	久留米大学・外科
高森 美穂	内科第一	別府 孝浩	筑紫病院内科		

リサーチビジター

微生物学大学院生
厳 紅

出身地は中国で、日本の方
にはおなじみの「天津甘栗」
の天津市です。
福岡大学にきたのは一九九
二年四月、運動生理学を勉強
するためで、まず、体育学部
(現在のスポーツ科学部)の
維持できるかという内容です。

興味は、スポ
ーツ全般、旅行
カラオケ(十八
番は「長崎の夜
はむらさき」)
です。好きな食
べ物は、刺し身
と博多ラーメン
です。だんだん
オヤジ化してい
たといわれてい
ます。医学部研
究棟三階で大き
な声がしたら、
それは私です。
微生物教室の
みなさま、福岡
大学のみなさま、
今後ともよろしく
お願いします。



山海関：万里の長城の始発点 (天津市から車で1時間のところにあります)